3つの森林活動

みなさまの参加を お待ちしております



小原本陣の森 第1・3日曜日



知足の森 第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森 不定期活動

News NPO法人緑のダム北相模 Letter midorinodam.jp



【定例活動報告】小原本陣の森

第1日曜日の活動より

今回の活動目的は、孫山正面ルートの台風での崩落状況の確認に出かけた。小原で鋸、ナタの他スコップ、クワ、チェンソー、ロープなどを分担してイザ出発!

従来の小原基地を真直ぐ進み孫山のコルに取りつくコースであるが、下りではコースを迷ってしまう為、下から登りながらコースを迷わないよう目印をつけることにした。

この正面ルートは神奈川県が3年前に造成したコースで歩きやすく整備されたコースに仕上がっている。しかし急峻なため脆く崩れやすいのが心配である。正面ルートの中腹あたりに足場の悪い底沢につながる山道との分岐があり、大変迷いやすい状況にあったため下りルートを間違わないよう正

緑のダム北相模は相模原 市内で活動する森林ボラ ンティアです。急がず、無 理せず、楽しく、休ま ず、ボチボチと・・。





規ルートの補正と誤ルートの進入禁止表示を行った。その後孫山頂上にて昼食をとり、西側ルートを下りながら倒木の点検を行った。新たに台風20号が日本列島に近づいているが、環境変動の影響もあり風雨が従来の常識を超える天候は今後も常識になるのではないかと心配である。

第3日曜日の活動より

今回の活動の目的は、嵐山基地に仮置きしている間伐材の処理の準備活動を行った。学生3名の他定例活動会員7名の計10名での活動になった。

大雨の予想もあり参加者も制限された中での活動となった。早速、チェンソー3台で役120本強の間伐材を半分に切断した。理由は今後導入予定の材木粉砕機に合わせ適材の長さに切ったのである。この作業はすんなりと終わり片付いた。そのあと望星の森の植樹したトチの木の状態を確認したいとのことでその場所に向かい、トチの木の安全を確認した。しかし驚いたのは山容のあまりの変わりようで今まで見たことのない沢が水音をたて轟々と流れている風景であった。

気になった水源の森は様相を全く変えた、えぐれた水流の沢であった。嵐山も緑のダムの活動拠点として長年お世話になった森林では無くなっていた。この様になった自然をどのように修復するのか我々素人には理解できないが、このままの様相で自然は包み込んでいくのかとても興味が湧いてきた。その後、長福寺の裏山の崩壊を確認した。相模湖町社会福祉センターに寄り、NPOとしてボランティア活動登録を行って帰った。

小林 照夫(本会、理事)

【定例活動報告】知足の森

第3日曜日の活動より

第3日曜日の活動は、まずは望星の森を目指すことに。望星の森 はそもそも土砂崩れが起こった斜面であるから、実はあきらめムー ド。森林組合が作った砂利道から森に一歩入ったところから大きな 異変が。いきなり1mはあろうかという大きな溝(1枚目)。もと もと雨が降ったら水が流れているだろうなと思っていたところが。 考えてみたら森の入り口にある沢も沢でなく「湖」になっていた(2) 枚目)。ここで異変に気づくべきでした。さらに森にわけ入って行 くと、いつも丸太を積んで仮置場、としていたところは風景が一変 していました。斜面の上から土砂が流れてきて仮置場の脇の作業道 を全て削り、深いところでは幅3mくらい、深さも2mはあるくら い削れてしまっていたのです(3枚目)。そして削れた崖の脇から は湧き水が染み出し、新しい沢ができてしまったいるのです。大雨 で一時的に雨をためこみ、それが出てきているとはいえ、衝撃的な 光景でした。そして、その新しい沢を登りながら望星の森を目指す と、そこはまるで何もなかったかのようにいつもの望星の森が(4 枚目)ではこれらの土砂はどこから?と望星の森で考えていると、 こっちこっちと呼ばれて行ってみると、大きく崩れた跡が。望星の 森と、その後に高井戸中で間伐した斜面との間の上部、すでに神奈 川県に売却されてしまった斜面が大きく崩れ、下に向かって大量の 土砂を流していたのです。そのすごさを物語っていたものを粟田さ んが見つけていました。崩れた斜面の脇の木に2m以上にも渡って 泥がついているのです。崩れた勢いで巻き上がった土砂がここまで 付着している、すごい勢いで崩れたのがわかります。

その後、嵐山で水源、と呼ばれるところも様子見に行ってみまし



た。ここはちょっと雨が降ると沢として出現するのですが、ここも風景は一変していました。道路脇の「湖」になっていたところの上流にあたるのでそれなりに水は出ていると思いましたが、ここも水の勢いがすごく、土砂を全て流し、いわゆる基盤岩まで露出していました。以前桜井先生に山は崩れるものだから、と教わったことがありましたが、その規模には驚くばかりで、まだまだ山のこと、知らないことばかりなのだと思いました。

午後からは長福寺の方へ移動し、作業の続き。お花畑班が取り組んでいる斜面は特に問題なし、その下 の竹林は、というと、かなり竹が折れたりして、夏の体験学校時に整備したと思っていましたがまたひど い荒れよう。しかもその奥の斜面が大きく崩れており、当面は近づくことはできなそう。ここは近々桂北 小学校の5年生が体験間伐するので、安全に作業できる範囲を確認。後日、小学校の先生に見てもらい、 実施の予定とした。

そこから長福寺へ。物置の奥が崩れてしまっているとお聞きしていたのでその片付けをすることに。土 砂により物置の一つが押し流され、もう一つの物置を押しつぶしかけていました。間にある楓の木がかろ うじて物置を止めており、本会の物置を守ってくれていました。潰れかかった物置をなんとか掘り出し、 移動するところでこの日の作業は終了。物置自体はなんとか形を保っているので、扱いは長福寺さんの判 断次第ということにしました。

わずか一日の作業でしたが報道されているようにかなりの被害が出ているようです。今回向かうことは できませんでしたが、底沢の方が被害が大きいようで、いまだに入ることはできません。街の中も自衛隊 車両を見かけますし、会としてお手伝いできるところから復旧のお手伝いができればと考えています。

宮村 連理(本会、副理事長)

















森のコラム

桜井尚武の 「シナノキ属(*Tilia spp*)の 欧米での姿」

チョット見ですが、欧米でシナノキを見る機会がありました。日本でも最近所々でシナノキの並木を見るようになり ましたが(銀座にも出現しました)、欧米ではかなり大々的にシナノキが街中の景観に溢れていました(図1-1.1-2)。シューベルトの歌曲冬の旅に「菩提樹」があって、普通に菩提樹の並木のあることが歌い込まれています。この 「菩提樹」は仏教文化の教養がある日本人の翻訳で与えられた名前です。仏教とは関係ない欧米ではリンデンバウム (Linden Baum)あるいはライムツリー(Lime Tree)と呼ばれる樹木です。分類学で有名なリンネ(Linnaeus)、大西洋を 飛行横断したリンドバーグ(Lindbergh)、人名のリンダ(Lind)などはこの樹の名に由来しているそうです。





図1-1

西洋シナノキの街路樹と苞と蕾20140507 Muenster (ドイツ)





図2-1

図2-2

Linden Treeの花と幹 20170723 Boston Arnold Arboretum



図3. Linden Square 20180110 Wellesley

アメリカでもこのシナノキ属のLinden Treeは街路 樹や庭園樹に多く見られます。ボストンのアーノルド 植物園で見たシナノキ属の説明版にAmerican Linden とありました(図2-1,2-2)。

英語でこのアメリカシナノキをBass Woodといいますが、このBassには繊維(靭皮)という意味があり、かの地でもロープや籠や敷物を織るのこの木から取った繊維を使ったといいます。もちろん、ヨーロッパのLinden Baum類も街路樹に使うだけでなく、かつては樹皮から採る繊維を衣料やロープ、工芸品など様々に使用したようです。もちろん、蜜源植物としても重要です。

ボストン郊外のWellesley CityにLinden Streetという通りがありますがその沿線沿いにこんな一角があってこの樹木が普通に地域に溶け込み親しまれていることが窺えます(図3)。

桜井 尚武(本会、会員)

【若者の森づくり】 地球環境部

9月21日からの3日間、横浜のセンター北駅直結のノースポートモールで積み木イベントを実施しました。この企画は同ショッ大とでである。 とも未来研究所が受け、本会のは み木を使って実施しました。地球 環境部も当日のスタッフとして、 中学生から大学生15名が参加しました。

横浜市の小学校全てにチラシが配布されたこともあり、連日大盛況でした。入場整理をしていただいたイベント会社の人によれば3日間で1000名の親子が入場したようです。お店の開店とともに





エントランスから積み木スペースに駆け込んでくるお子さんもたくさんいて、あたかもデ〇〇

○一のような光景でした。1回入場で1時間遊ぶ ことができるのですが、次の回を待つ人たちが多 すぎて途中から整理券制となり、さらにそれでも 捌き切れないため、時間を指定した整理券、つまりもはやファ○○パスのような状態でした。場所や条件が揃うと積み木広場にはこんな人が集まるというポテンシャルの高さを再確認しました。こども未来研究所のスタッフの人とは中高生が主導する積み木速積みコンテストなども企画していましたが、もはや自分たちが思い想いのものを作るのに夢中で、これはボツ。素材があればあとは自由にさせればいい、というのもよくわかりました

このノースポートモールでは、のすぽキッズ未来計画という通年の企画をこども未来研究所の監修で行なっており、この積み木イベントもその一環でした。今回の積み木イベントの特徴としてよく話題になっていたのは、親子で参加している、親子で積んでいる組が本当に多かった、というよりもほとんどでした。親子で一緒に参加できるというのはこういうイベントではキーワードになっているそうです。我々からすればいつもの光景(気づいたら子どもを放っておいて大人が夢中になっているパターン)ですが、大変興味深いと研究所の方もおっしゃっていました。

また、当日は横浜市の社会科研究会の小学校の 先生方も見学にいらっしゃっていました。小学校 5年生で、林業のことをかなり学ぶように指導要 領が改定され、緑のダムの活動を参考に授業づく りをしていただいております。この日も実際に活 動に参加する高校生にインタビューなどをされて いました。

宮村 連理(本会、副理事長)

【若者の森づくり】 ForesTo Class

台風後の活動と森もの研 木工所視察

今月12日に神奈川へ直撃した台風の影響もあり、 我々ForesTo Classは緑のダム宮村さんが行なっ ている長福寺の土砂崩れ被害にあっている倉庫の 片付け作業に加わりました。

相模湖へ向かう途中も崩れている場所が度々あり、今回の台風の強さを感じました。

そのあと、新フィールドへの視察をするため上腹部へと思っていましたが、危険だったため別の場所『一区画だけ離れたフィールド』を見ることにしました。そこはかなりの急斜面のため、今後着

手するかは今視野に入れている上腹部を見て判断 していきます。

その日は相模湖へ宿泊。地元の桂月さんにお世話になりました。内容もリノベーションされてきれいになっており、また合宿などで利用したい思います。そこから眺める相模湖も今までにない濁った色をしており、台風の影響を如実に表していました。

翌日は今後の森林の利用価値を高められるアイデアを出すために、さがみ湖森・モノづくり研究所の木工所へ視察しました。

[1]緑区小渕の木工所

様々な機械があり、市の学校への机に使われる 板の加工や積み木の加工を得意としています。使 われるのは針葉樹よりも広葉樹がメインであるた め、われわれの整備から出る木材は厳しそうです が、材を薄くする加工ができたり、レーザーで型 取る事も新しく進めていてアイデア次第では針葉 樹でも何かできそうだと感じました。

[2]緑区青山の倉庫

倉庫では木材の乾燥をさせて保管しています。 乾燥は湿気を通さないような仕切りをした部屋で 乾燥機を置く設計となっています。使われる木材 は35×75×800mmのサイズにしていくのですが、 驚いたのは歩留りが10%も低いことでした。









当然乾燥でも落ちますが、丸太から角材にするためにかなりの材を落とすことになります。 材の評価を高めるためにも、端材の有効活用も考えられたらと思いました。今回同行してくれた植木業を営んでいるメンバーに持って帰ってもらい、活用できないか意見ももらいたいと思います。

視察で感じたことは、アイデアや商品は多岐に渡るが、ありふれた木工品の中でどう差別化していくかという点です。我々ForesTo Classが商品

を作っていくにも、専門的に取り組んでいる所と は生産性で劣るため、コスト部分では価値を提供 できません。

やはり先日行った間伐体験やキャンプ、山を歩くなどのイベントを組み合わせた木工とのコラボで勝負していくべきだと思いました。最後に、さがみ湖森・モノづくり研究所の淵上さん、浜田さんありがとうございました。製品は相模湖駅の観光協会や相模大野の相模原アンテナショップのサガミックスにもあるそうです。

滝澤 康至 (ForesTo Class)

【事務局から】

積み木イベントが続きます

10月20日は逗子の商工会青年部により積み木イベントを実施していただきました。その名も「ツミキーランド」こちらも大盛況だったようです。

また、10月26日、27日の週末には麻布大学の学園祭でフォレストノバによる出店もありました。こちらは来月号にてご報告します。また、11月23日からのこがねい環境フォーラムにも積み木を貸し出します。こちらは同封のチラシをご覧ください。

O NPOMIDORINOD AMKITASAGAMI

参加にあたって:

初参加者は、9時15分までに JR相模湖駅前に集合です。服 装、持ち物については、汚れ ても良い服装、着替え、滑ら ない靴 成るべく皮製手袋、 万一の怪我に備えて保険証、 飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対 応:

危険管理・救急体制・森 林ボランテイア保険の準 備の他、会として可能な 限りの体制を敷いていま すが「怪我・事故は、自 己責任」です。

NPO法人

緑のダム北相模

名称:特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局:〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

発行人: NPO緑のダム北相模

支援団体:セブン-イレブン記念財団

<u> 積水八ウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構</u>

協働団体:神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社) さがみ湖森・モノづくり研究所、ウッドバンク(株)





